

ぼくとじいちゃんの<sup>なつやす</sup>夏休み



Akari

## もくじ

池 <small>いけ</small>	釣り <small>つり</small>	お蔵 <small>くら</small>	お風呂 <small>ふろ</small>	石切り <small>いしき</small>	散歩 <small>さんぽ</small>	プール	朝 <small>あさ</small>	天の川 <small>あまがわ</small>	ムック	新幹線 <small>しんかんせん</small> に乗 <small>の</small> って
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
14	11	10	9	8	7	6	5	4	3	1

さようなら	戦友 <small>せんゆう</small>	終戦記念日 <small>しゅうせんきねんび</small>	賽 <small>さい</small> の河原 <small>かわら</small>	閻魔堂 <small>えんまどう</small>	お寺 <small>てら</small>	墓参り <small>はかまい</small>	お盆 <small>ぼん</small>	花火 <small>はなび</small>	カブトムシ	好きなもの <small>す</small>
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
32	31	29	28	27	25	22	20	19	18	16



挿絵：KODO

# 新幹線に乗って

だいすけ  
大介は小学三年生。

まいとしなつやす  
毎年夏休みになると田舎のじいちゃんの家に行きます。

はたら  
パパもママも働いているので忙しくて、

まいにちひとり  
「大介が毎日一人で家にいるのは可哀そう」

だからだそうです。

ち  
大介はじいちゃん家に行くのは大歓迎。

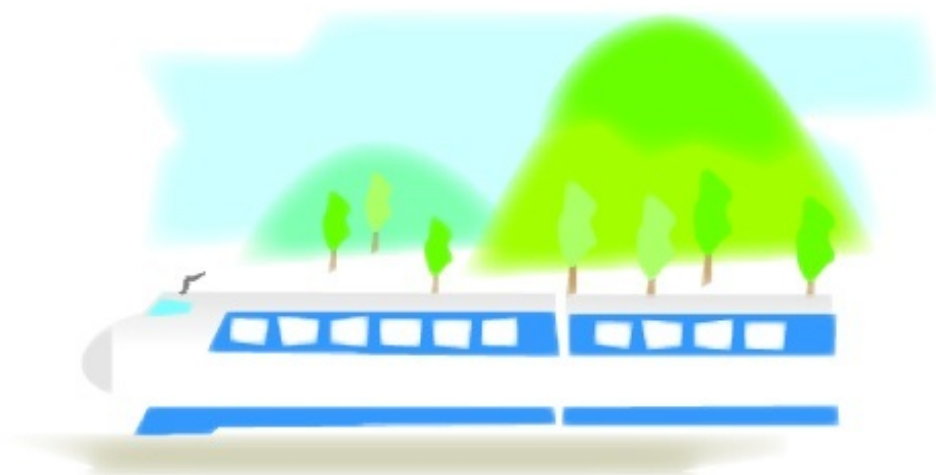
だいす  
じいちゃんが大好きだからです。

もちろんばあちゃんも好きです。

おとこどうし  
でもやっぱり男同士だからじいちゃんのほうがちよっぴり多目に好き。

きが  
着替えと宿題を持って一人で新幹線に乘ります。

えき  
駅までママが送ってくれます。



到着するとじいちゃんが駅で待っています。

一年生の時から一人で新幹線に乗っていますが、

最初は不安で心配でドキドキしました。

でも、一回成功するとちよっぴり大人になったような気がして、

今は平気です。

駅からじいちゃん家まで車です。

川沿いの土手を走ったり、田んぼや畑の中を走ったり。

遠くの山が少しずつ近づいてきます。

「じいちゃん家にきたら」

という感じがして、ぼくはその行程が大好きです。

じいちゃん家に着くとニコニコ顔のばあちゃんが待っています。

大抵はトウモロコシが茹でてあり、西瓜が冷やしてあります。

ばあちゃんは子供はトウモロコシと西瓜が大好きだと信じています。

フライドポテトやチョコレートも好きなんだけどね。



ムック

ばあちゃんその他に大歓迎だいかんげいしてくれるのがムック、むくむくの毛の大型犬おおがたけんです。  
犬小屋いぬごやに行つて綱つなを外すと大喜びおおよろこびです。

飛とんできてじゃれるのでいつもひっくり返かえつてしまいます。

リムックをおろすと最初さいしょはムックと遊あそびます。

ムックは棒投ぼうなげが大好き。

落おちている木の枝えだを放ほうつてやると飛とんで行いつてくわえてきます。

何度なんどでも飽あきずに拾ひろつてきます。

ご褒美ほうびなんかあげなくてもです。

いっぱい遊あそんだ後あとでいよいよトウモロコシの出番でばんです。

おばあちゃんあまのトウモロコシは甘あまくて柔やわらかくて、

一本いっぴんペロリと食たべられます。

ムックにもあげます。

ムックもペロリと食たべます。



天の川

夜になると賑やかに鳴いていた蝉の声も静まって、

代わりにカエルやフクロウが時々鳴いています。

ぼくはじいちゃんと天の川を眺めます。

じいちゃん家から見る天の川は圧巻です。

空一面に星があり、まん中に川のように星が集まっています。

ぼくは夏の星座、彦星（アルタイル）と織姫星（ベガ）をさがします。

星がいっぱいありすぎて、なかなか見つかりません。

本物の星空なんてじいちゃん家で見られないからね。

じいちゃんは「織姫と彦星」の話をしてくれます。

ぼくはその話は知っているけど黙って聞きます。

じいちゃんの「織姫と彦星」はいつもどこかが

新しいのです。



田舎いなかの夏休みあさは朝あさから忙いそがしい。起おきるとすぐさにムツクの散歩さんぼに行いきます。

ムツクの散歩さんぼはじいちゃんあいだの仕事しごとだけど、ぼくあがいる間あはぼくあの仕事しごとです。

田んぼ道おがわや小川ぞ沿ぞいの道あそを三十分あるくらい遊あそびながら歩あきます。

ムツクはぼくあの後あになっあたり先あになっあたりいきなり走あったりしてご機嫌きげんです。

カエルを追おっかけたり、草くさむらに顔かおを突つ込んだり忙いそがしいのです。

いきなり駆かけ出す時あはぼくあも一いっしよ緒あに駆あけるので日頃ひごろの運うんどう動ぶ不足そく解かい消しょうです。

実じつはちよあつとへたり気味きみ。朝あ早あいから車あはほとんあど通とおりませあん。

思おもい切きり遊あそんでうちあに帰かえると朝あごはんあがであきてあいます。ばあちゃんあの朝あごはんあ

はご飯はんと味噌汁みそしると煮物にものとサあラダ。サあラダは裏うらの畑はたけから採とってきたあばかりあの採とれ

たてです。ぼくあはトマあトがあまあり好すきじゃあないあけど、ばあちゃんあのトマあトは特とく別べつ

です。甘あくてお日ひ様さまの味あじがあします。ピあーマンあだあって嫌きらいあだあったあけど食たべあられるあよ

うあになっあたあんだ。朝あごあはんあの後あは宿題しゅくだいの時間じかん。じいちゃんあはこあれがあ済すまあないあと

遊あそんでくあれませあん。不ふ思し議ぎと家うちにあいる時ときよりあはかあどありませあん。

# プール

じいちゃんは定年退職した後、週3回くらい、嘱託で会社に行っています。

そんな日は、宿題が終わるとばあちゃんと畑やプールに行くのです。畑にはトマトやキュウリやナス、ピーマンが育っています。プリンスメロンもあるよ。

じいちゃん家でいっぱい野菜の名前を覚えてんだ。そして、じいちゃん家にいる時だけ野菜が好きになりました。

プールは町営の大きいのが歩いて十五分くらいのところにあります。

ばあちゃんは子供は夏には泳ぐものだと決めている。

行くと監視員のお兄さんに

「大事な孫だからちゃんと見ててよ」

と言って、一時間ぐらいしたら迎えに来るからと帰っていくのです。毎年夏休み

に来ているから顔見知りも何人かいる。一緒に泳いだり、遊んだりして結構楽しいよ。帰るとばあちゃんのおやつ。トウモロコシだったり、スイカだったり、蒸しパンだったり。お腹が空いているからめっちゃ旨いんだ。





# 散歩 さんぽ

夕方、じいちゃんが帰ってくると一緒にムックの散歩に行きます。

じいちゃんの散歩道は田んぼのあぜ道だったり、神社に続くみちだったり、山すそを流れる川沿いの道だったりします。ぼく一人では絶対にいけない道ばかり。歩きながらじいちゃんはぼくに色々な話をします。

「この木はしいの木っていつでどんぐりは食べられるんだよ。」

今は誰も食べないけど、昔は栗みたいに炒っておやつにしたもんだ。たまに大きな川のそばも通ります。

「あそこに釣りしている人がいるだろ。この川には鮎がいるんだよ。」

鮎は友釣りと言って罎の鮎を一匹入れるんだ。

縄張りに侵入したと思って追い出しに近づいてきたところを釣るんだ。

「鮎は美味いぞ。何と言ってもシンプルな塩焼きが一番だ。」

今度食べに行こうな。

もちろん連れて行ってもらったよ。おいしかった。



# 石切り

川沿いの道を散歩していた時、じいちゃんが言いました。

「石切りしようか？」

「石切りって？」

じいちゃんは河原に降りて行きます。小さな石がゴロゴロしているところを通って水の近くに行くと、まわりを見回して小さい石を拾い、その石を川の中に投げた。すると、石は水の上をピョンピョン跳ねて遠くまで飛んで沈んだ。

「すごい。ぼくもやる」

真似をして投げてみたけどすぐに沈んでしまう。

「ねえ、じいちゃんのはどうして沈まないの？」

「石だよ、石。なるべく平たい石を探すんだよ。…ほら、こんなの。」

そして、放り込むんじゃなくて、水の上を滑らすように投げてるんだ」

何回もやると2〜3回跳ねるようになりました。

じいちゃんは5回も、6回も跳ねるんだ。すごいね。



## お風呂

一日の最後にじいちゃんとお風呂に入ります。

じいちゃんのお風呂には決まった順番があるんだよ。

1 最初に掛け湯をしてざっと身体を洗う。

2 ゆっくりお湯に浸かる。

3 上がったら今度はじっくり身体を洗う。身体は上から順に洗う。

4 シャンプーは2度。一度目はざっとホコリ取り、二度目は丁寧に。

5 綺麗になったらもう一度お湯に浸かる。この時は短くてもいい。

6 しっかり拭いて出来上がり。

毎回言われるから覚えちゃった。

夏でもシャワーだけじゃダメなんだって。

上がるとばあちゃんがアイスをくれます。



# お蔵くら

じいちゃん家にはお蔵くらがあつて、時々ときどきばあちゃんと入るはい。お蔵くらは夏なつでも冷ひんやりとしていて特別とくべつな匂においがする。カビ臭くさいような、漬物つけものくさいような、ホコリ臭くさいような。ばあちゃんはぬか漬づけけをお蔵くらでつけている。夏なつでも暑あつくならないからちようどいいんだつて。梅干うめぼしやらつきよう漬づけけもお蔵くらにある。

漬物つけものだけじゃなくて、普段ふだん使つかわないようなものはみんなお蔵くらにしまつてある。

「その棚たなの上うえの箱はこをとつておくれ。そう、細長ほそながいの。それぞれ」

ぼくが取とつてあげるとにつこりします。

「ありがとう。高たかいところは最近さいきん怖こわくてね。助たすかるよ」

ぼくがいない時ときはこまらないかな。心配しんぱいです。

母屋おもやに戻もどつて箱はこを開あけると「掛かけ軸じく」が出てきたりする。

「もうすぐお盆ぼんだからね。床とこの間まの軸じくも変かえようと思おもつて」

ぼくはお蔵くらには一人ひとりでは絶対ぜったい入りたくない。ちよつと暗くらいし、あの重おもい扉とびらが

閉しまつたらとじ込こめられるようようで怖こわいんだ。ばあちゃんは怖こわくないのかな。



## 釣り

じいちゃんは釣りにも連れて行ってくれます。

山裾に大きな池がある。じいちゃんは「山の池」って呼んでいます。

その池は水田に水を引くために作られた人工池で川に流れ出ているんだ。堰があつて水の量を調整できるようになっている。

じいちゃんは怖い顔で言います。

「二人では絶対に行っちゃいけないよ」

深い池だから危ないそうです。

じいちゃんはその池でコイやフナを飼っています。

最初に何匹かずつ買ってきて放したんだって。

今じゃけっこう増えているという。



じいちゃんが大切にしている釣り道具とおにぎりを持っていく。

餌は畑でミミズを取って来ます。

もちろんじいちゃんが。

ぼくはミミズに触れない。

じいちゃんには笑われるけど、できないものはしょうがない。

餌をつけてもらって池に入れたら、後はじっと待ちます。

ぼくはじいちゃんに学校のこと、友達のこと、パパやママのこと、

いろいろなことを話します。

じいちゃんは「そうか、そうか」と聞いてくれる。

夏なのに、木陰は風が吹いて気持ちがいい。

「山の池」は里山の入り口にあるからほとんど人が来ない。

じいちゃんはいっぱい釣るけど、ぼくはあまり釣れない。

たまに釣れるとその時はものすごく気持ちがいい。

じいちゃんに外してもらってバケツに入れるんだけど、マジックで名前を書きた

いほどです。ぼくが釣ったんだよ、ってね。

またじいちゃんに餌をつけてもらって水にたらしめます。

おにぎりを食べて少しするとそろそろ帰りの時間です。

「そろそろ帰ろうか。いっぱい釣ったからな」

竿をしまったじいちゃんは池を回って山の方に行きます

「ちよつと寄っていくところがある」

山から池に水が入っているとそこに行くのです。

そこには山葵が育っていてびっくりしました。

山葵もじいちゃんが植えたんだって。

根っこを川岸に植えておいたら増えたらしいのです。

「山葵はな、きれいな水じゃないと育たないんだよ」

言いながら一株二株収穫します。

「こんなところにあつたら誰かが採っていつちやうんじやない？」

ぼくが心配すると、じいちゃんは笑います。

「だれも持っていないよ。まあ、誰か欲しい人が採っていてもいいさ。

一株残しておいてくれればまたふえるからな」

# 池いけ

じいちゃん家の庭ちのにわには池いけがあります。

庭いちばんの一番はしつこちいに小さい川かわの水みずを引き込ひこんであるのです。

日本庭園にほんていえんにあるようなカツコイ池いけじゃない。

二メートル四方しほうのちよつと深めふかの四角しかくい池。

観賞用かんしょうようじゃなくて実用じつようむ向きなんだって。

いつもきれいな水みづが川かわから入はいってきて、また出でて行く。

釣つってきた魚さかなはその池いけに放はなします。

1週間いっしゅうかんくらい泥抜きどろぬきをするんだって。

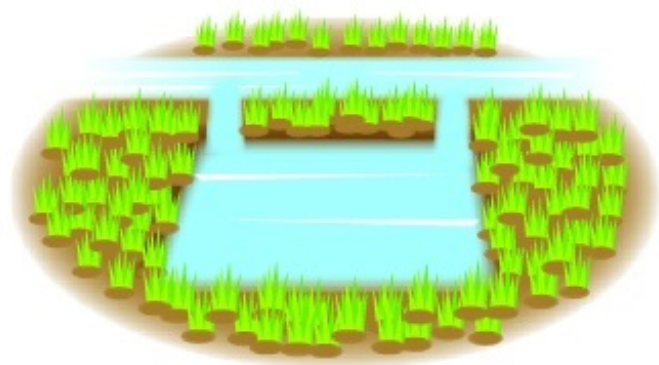
川魚かわざかなは、特とくに鯉こいは泥抜きどろぬきをしないと美味おいしくないので。

1週間いっしゅうかんくらいしたら、じいちゃんは池いけのそばに台だいとまな板いたを出だして鯉こいをさばく。

じいちゃんは普段ふだん、料理りょうりしているところなんか見みたことがないけどね。

でも、釣つってきた魚さかなは必ずじいちゃんがさばく。

それが、驚おどろくほど上手じょうずなんだよ。





ボールに氷水を入れてあって、薄く切った鯉をその中に入れる。

(洗いって言うんだって)

お皿に並べたところなんか日本料理の板前さんみたい。

ついでに大根を細く切ってツマも作ります。

「刺身のつまは、まず桂剥きにしてから細く切るんだよ」

なんて言いながらね。

じいちゃんはこんなことも言います。

「獲ってきたものは獲った者が責任を持ってさばくものさ」

「食べないものを獲るもんじゃないよ。それは殺生と言う」

畑からシソの葉をとってきて添える。

冷たくて美味しい。

じいちゃんはお酒を飲みながらとっても美味しそうに

食べます。

「鯉の洗いはな、酢味噌で食べると美味しいんだ」

「極楽、極楽」



好きすきなもの

じいちゃん家の庭にはヒイラギの木、八重桜やえざくら、山茶花さざんかが植うわっていて、ユスラウメの小さい木や岩陰いわかげにはユキノシタも生はえています。

あとは知らない木が沢山たくさんあります。

じいちゃんもばあちゃんも木や花が大好きです。

柿かきや梅うめの木もあり、イチジクとブドウの木もあるんだ。

夏休みなつやすには果物くだものは生ならないので残念ざんねん。

ヒイラギも桜さくらもさざんかも夏休みには花はなが咲さきません。

ヒイラギは白しろい花が咲くそうです。

八重桜は知ってる、家の近ちかくにもあるからね。

さざんかも垣根かきねになっているうちがあるからわかるけど、

ヒイラギの花は見たことがない。

じいちゃんは毎年まいとし、節分せつぶんにはヒイラギの枝えだにイワシを刺さして家の入り口ぐちに刺さすんだって。ヒイラギの葉はトゲがあるから魔除まよけになるそうです。

葉はっぱはトゲトゲして痛いいたけど、白しろい可愛かわいい花はなだそうです。  
じいちゃんは木や花が大好きだいすき。

ばあちゃんも花が好きすきだけど、ちよちっと違ちがうんだ。

ばあちゃんは綺麗きれいな花があるとみんな他人ひとにあげてしまう。

お花はなを見てみんなが喜よろこぶ顔かおを見るのが好きすきなんだって。

じいちゃんはあげない。

枝えだや花はなを切きるのがきれいなんだよ。

かわいそうなんだって。

好きっていうのにもいろいろあるんだね。



## カブトムシ

虫捕りは、網と虫かごを持って朝いちばんに出かけます。カブトムシは朝早く行かないと捕れないのです。林の中のじいちゃんに教えてもらった木（クヌギの木だつて。）に行くとき、カブトムシが何匹もいます。届くところにもいるし、高いところにもいるし。下の方にいる時は手でつかみます。じいちゃんといったとき、じいちゃんが足で木を蹴飛ばしたらカブトムシが落ちてきたよ。ポトポト落ちてきたから驚いた。

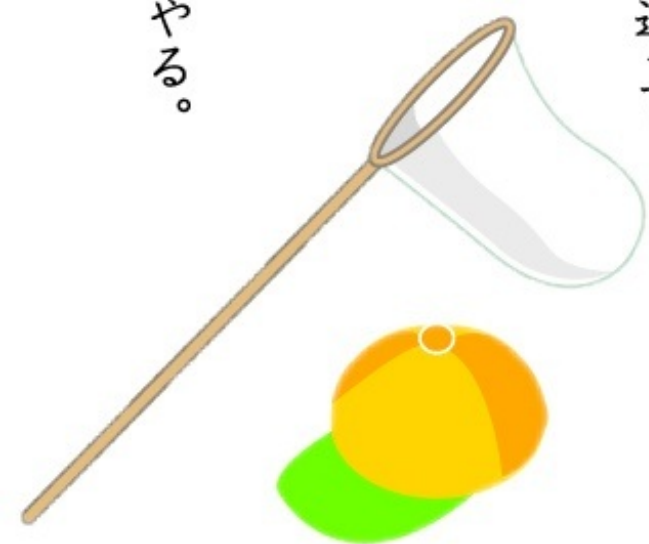
セミは虫取り網でサッと素早く抑えます。カブトムシと違って逃げるのが素早いから。おまけにおしっこをひっかけていくのさ。セミだって必死なんだよ。

だけどぼくはセミは捕まえない。

7年も土の中にいたからかわいそうなんだ。

捕まえたカブトムシにはスイカの皮やキュウリを入れてやる。

カブトムシは甘い汁が好きなんだ。



花火はなび

夏休み中に一回は夕ご飯の後にお楽しみがあります。

スイカを食べて、花火をするのです。

ママがもたせてくれたのと、ばあちゃんと雑貨屋で買ってきたのと。

バケツに水を用意して、縁側のそばにローソクを立てて。

シューっという音の出る花火や線香花火、打ち上げ花火。最後にネズミ花火。

花火が始まるとムックは大騒ぎします。

花火に向かって

「ウーっ、ウオンウオン」

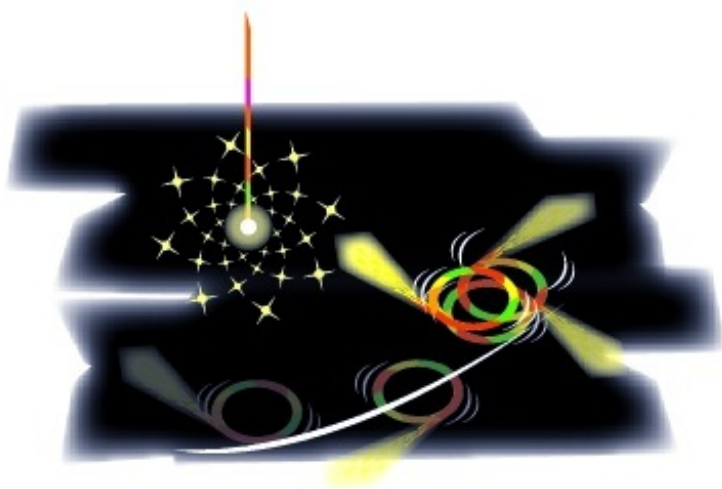
でも、決して近づかないんだ。

ネズミハナビの時は大変。

花火が逃げていたり追いかけてきたりするから。

最後は遠くに行つて吠えます。

怖いかもしれないね。



# お盆ぼん

夏休みの一大イベントはお盆です。

お盆はじいちゃんも休みなのでずっと一緒いっしょです。

お盆にはじいちゃん家には「おしよらいさま」がやってきます。

「おしよらいさま」はご先祖せんぞの霊れいなんだって。

ばあちゃんはお盆のはじまりの日に門もんのところで迎え火むかひを焚たく。

そして、キュウリやナスで馬うまを作つくって置おくのです。

早く来はやて欲ほしいから馬うまなんだって。

帰かえりは牛うしだって、ゆっくり帰かえるために。

「おしよらいさま」はその火ひの明あかりをめざして馬うまに乗のって

やってくるのだそうです。

お坊ぼうさんがやってきてお経きやうを読よみます。

お坊ぼうさんはスクーターに乗のってやってきます。

お盆ぼんは沢山たくさんの家いえを回まわるから大変たいへんいそがしいんだそうです。



仏壇には野菜や果物がたくさんお供えしてあります。

これは後でみんなでいただきます。

ママが子供の頃は全部川に流していたそうです。

だから、お盆の間中、川にはキュウリやナスやスイカがプカプカ浮かんで流れていたそうです。

ママは子供のころそれを見るたびに考えたそうです。

「どこまで行くんだらう。海まで流れていくのかなあ？」

ぼくも同じことを考えました。

今は川が詰まってしまったり汚れるので流せなくなりました。

昔はなんでも川に流したんだって。

七夕飾りも。

今、そんなの流したら川が詰まってゴミが引かかって大変なことになるね。

昔は人口が少なかったから大丈夫だったってじいちゃんはいってる。

誰も持っていく人はいなかったんだって。



# 墓参り

お盆にはお墓まいりもします。

じいちゃん家のお墓はお寺の裏の山裾にあるのです。

公園墓地とは違ってとても自然の中って感じの所。

近所の全部の家のお墓があつて、お盆は賑やかです。

お盆が近づくとお墓の周りを綺麗にします。

ぼくもついて行って手伝います。

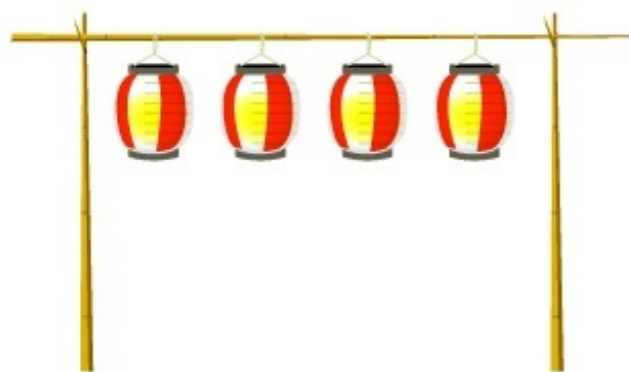
草を取ったりお墓を洗ったり。

そして提灯を吊るせるように竹の柱に綱を張って準備完了。

お盆になるとお花とみずと提灯を持ってお墓に行きます。

お墓の入り口のところにお堂があつてお地藏様が6体並んでいる。

じいちゃんに聞くと「六地藏」と言つて生前の行いによって人は死後に





地獄、畜生、餓鬼、修羅、人、天という六つの道を通るんだって。  
その六道にいて通る人の苦しみを救ってくれるのがお地藏様。  
大切にしないではいけないとじいちゃんは言う。

お地藏様にもお花と水をお供えします。

そして綺麗になったご先祖のお墓にはまず提灯を並べて下げるのです。

提灯のろうそくに火をつける。

もちろんお花やおみずも新しくして、お線香を焚きます。

全部のお墓に提灯が灯っている。

中には提灯が燃えているのもあります。

火事にならないかなと心配になります。

「大丈夫。今日は一日中お参りの人がかかるから。みんな気をつけているから」

じいちゃんのはのんきに言います。

ここで火事になったことは一度もないそうです。

毎年のことだから大丈夫なのかなあ。

お盆中はお仏壇のお供えも沢山あります。

ばあちゃんは毎朝、お仏飯やお花や果物をお供えします。

もちろんご先祖が帰ってきているからね。

しよっちゅう親戚や近所の人が出て「ちゅん」というおリンの音と

「なむあみだぶつ、なみあみだぶつ」

という声が聞こえます。

お線香の匂いもします。

終わると

「大介、今年もきたか？ 大きくなったな」

といって、じいちゃんとビールを飲んで帰ります。

ぼくはばあちゃんの作るちらし寿司が大好きです。

ママも時々作るけど、ばあちゃんの方が断然うまい。

ばあちゃんはぼくが喜ぶから、お盆にはいつもちらし寿司を作ってくれます。



## お寺さん

じいちゃん家のお寺さん（菩提寺って言うんだって）は、歩くところと三十分くらいのところにある大きなお寺です。お墓もあるからお盆には必ず行くのです。

本堂や鐘撞堂の他にも色々なお堂があります。

お稲荷さんも境内にあるんだよ。

（お稲荷さんって神様じゃなかった？）

池や階段もあるとても大きなお寺です。

「ここは比叡山の末寺だよ。千年の歴史があるんだよ。

お葬式の時はお世話になるんだから」

なんて言う。

お寺の裏には大きな池があつて、貸しボートが浮かんでいます。

時々乗っている人を見かけます。

貸しボート屋さんや「かき氷」や「アイスクリーム」も売っていて

ベンチで食べている人もいます。



そこを通り過ぎて少し行くと突き当たりが崖がけになっていて、3メートルくらい  
の滝たきがあります。

そこは夏なつなのにひんやりして気持ちきこもちがいい。

滝の水みずは小さな流れながになって池いけに注そそいでいます。

毎年まいとし、お寺てらに来ると必ずそこに行くいのです。

滝以外たきいがいになんにもないんだけどね。

一度庫裏いちどくりの前まえでお坊ぼくさんに会あったことがあります。

このお寺てらの管長かんちやうさん（一番偉いちばんえらい人ひと）で、じいちゃんじいちゃんの同級生どうききやうせいなんだって。

じいちゃんが挨拶あいさつをします。

「お孫まごさんですか？」

夏休なつやすみだから遊びあそびに来きてるの？

それは嬉しいうれいですね。

おじいさんのところは楽しいたのいでしょう？」

ぼくにも話はなしかけてくれましたが、お坊ぼくさんと話はなしたことがなかったから、

ちよっと緊張きんちやうしました。

# 閻魔堂

お寺には色々なお堂がある。

中でも閻魔堂というのがあって、地獄の閻魔様や奪衣婆がいて怖い。

閻魔様って本当に恐ろしい顔しているんだよ。

天秤ばかりがあって片方に人間がのっけていてもう片方には山がのっけています。

これは罪の重さを計るんだって。

悪いことをした人は山より重くなるそうです。

奪衣婆は嘘をつく人の舌を抜く係りだって。

他にも地獄の針の山とか血の池地獄とかの絵もあってとにかく怖い。

説明を聞いたなら地獄には絶対に行きたくないって思うよ。

じいちゃんが、地獄に詳しいなんて驚きだけだね。

最後は安心できるよ。

「だいじょうぶ。ちゃんとお祈りすれば仏様が救ってくださるから」

賽さいの河原かわら

お寺てらには「賽さいの河原かわら」っていう石いしを沢山たくさん積つんだ場所ばしょもあるんだよ。

じいちゃんはいうんだ。

「子供こどもが死ぬしとここに来くるんだよ。三途さんづの川かわの河原かわらなんだよ。子供達こどもたちは残のこされた親おやのために石いしを積つむんだ。あと少すこしというところまで積つむと鬼おにが来きて壊こわしちゃうんだ。そこへお地藏じぞうさま様さまが来きて着物きものの陰かげに子供こどもを入れて助たすけてくださるんだ。お地藏じぞうさま様さまは子供こどもを守るまもる仏ほとけ様さまなんだよ」

「子供こどもなのに死しんじやうなんて可哀かわいそうだね。それに、せつかく作つくっても壊こわされちゃうなんてひどいよね」

「そうだ。でもな、親おやより先まきに死しぬのは親不孝おやふこうなんだよ。逆縁さかえんと言いって親おやにとつてこんな悲かなしいことことはないんだよ。子供こどもは親おやより長生ながいきしないとな」

「うん、がんばってぼくは絶対ぜったい長生ながいきする」

「そうかそうか。それがいいな」

よくわからないけど、じいちゃんの話はなしはなんとなく大事だいじなことだおもって思う。



# 終戦記念日

八月十五日は終戦記念日。

その日になるとテレビでは戦争の番組をながします。

じいちゃんは戦争に行きました。

でも普段は戦争の話をしたことがありません。

ぼくは一度じいちゃんに聞いたことがあります。

「じいちゃん戦争に行ったんでしょ」

「うん、行ったよ」

「鉄砲とか撃ったりしたの」

「そりゃあ戦争だからな」

「すごいね。カッコイイ」

しばらく考えていたじいちゃんは言いました。

「大介、戦争ってのはそんなもんじゃない。」

さっきまで一緒にご飯を食べたり笑ったりしていた仲間が隣でバタバタ死んでいくんだぞ。

じいちゃんだっていつ死ぬかわからない。

頭の上ををひゅんひゅん弾が飛んでいくのは本当に怖いもんだ。

ゲームじゃないから死んだ人が生き返ったりもしない。

じいちゃんは大介を絶対に戦争に行かせたくない。

じいちゃんは戦争の時のことは思い出したくないんだよ。

そりゃあひどいもんだったからな」

それからじいちゃんに戦争のことは聞かないことにしているんだ。

ばあちゃんに言わせると、じいちゃんは戦争でとっても辛かったんだって。

「戦争に行った人はみんなそうなんだけどね」

って、ちょっと遠くを見てるような目をする。

ぼくにはよくわからないけど、

戦争って怖いんだね。





# 戦友

戦争が嫌いなじいちゃんが戦友に会いに行くんだって。

今年の「戦友会」がとなりの県であるからだそうです。

不思議に思って聞いてみました。

「戦友って戦争の時の友達でしょ？」

「そうだよ。同じ釜の飯を食べた仲間だ」

「戦争のこと思い出したくないんじゃないの？」

「そうだな。でもな、戦友は別だ。みんな一緒に苦労した仲間だからな。あの

苦労は経験した者にしか分からないからな。亡くなった仲間もいっぱいいる

けど、生き残った仲間と話すのはいいもんだよ」

「そうか、同窓会みたいだね」

「そうさ、じいちゃんも年だからね。あと何回会えるかなとも思うんだよ。

会えるうちに会っとかないとね」

うれしそうに出かけて行きました。

さようなら

夏休み最後の土曜日にはパパとママが迎えに来ます。

パパが忙しい時はママだけの時もあります。

一晩泊まって日曜日に帰ります。

ママが来るとばあちゃんが嬉しそうです。

「もっと泊まるといいのに」

とても残念そうにいます。

「そうだね。でも、仕事は待ってくれないから」

ママは忙しいのです。

じいちゃんやパパとお酒が飲めるのがうれしそうです。

「無理するなよ。大介は元気だったから大丈夫。な、大介。面白かったろ？」

「うん、楽しかったよ」

土曜の夜は大人たちは遅くまで話したりお酒を飲んだりしています。

そして日曜日、パパもママも両手にいっぱいのお土産を持って新幹線に乗ります。

ママは、ぶつぶつ言いながら野菜や果物を抱えています。

「そんなに持てないから。食べきれないよ」

「大介、お正月休みにも来るんだよ」

「パパやママの言うことを聞くんだよ。身体に気をつけてね」

じいちゃんとはあちゃんに別れを告げていると

新幹線はあつという間に発車してしまいます。

ばあちゃんがぼくに言いました。

「孫はとっても可愛いけど、子供は別の可愛さがあるんだよ。」

いくつになってもね。大介も子供ができるとわかるよ。

だから、パパやママをよろしくね」

大人になったらわかるかなあ。

## ぼくとじいちゃんの夏休み

<http://p.booklog.jp/book/99639>

著者 : akari

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/miracle-house/profile>

挿絵 : KODO

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/99639>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/99639>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社ブクログ